

於龍動府

一千八百七十七年一月九日

任幸便一書在啓致長陳高貴府ニ於テ閣下、特
總理下ニ即執行相成長博覽會萬緒ヲ尾好成
功之趣ヲ敬言至ラザル所ナラシテ、感被實ニ筆紙
ニ難及長却詠貴國、所出品餘程成大ナリシ
方々由ニシテ何處ヲ論セズ貴府博覽會ノ然
間、毎ニ日本政府ヨリ、陳列ハ實ニ可驚嘆妙
ノ物品ナリシトシテ賞美セザルハ無ミト
自ラ信ズル。餘リ深キナラシテ、於テ日本
ノ友人トシテ相知ラレ吾長然ルニ今度貴府ノ博
覽會ニ付テハ拙者ハ何一ツ貴國ノ為メニ選
品評ヲお加ヘテモ無ク、其即出品ニ於テ固
ヨリ如此多評等ヲ待テ羨ナシモノニ無ク、長事明
瞭ニ相見得。抑モ日本ヨリ如此美廉ナル所出品
アリテ人々ヲシテ歎賞ナシメタル、凡評臣等

府、相國へ長ニ由リ佛蘭西政府ニ於テハ千八百七
十八年ニ催スル大博覽會ハモ日本ヨリ心々奇廉
ナル物品、陳列可方々、類ニ企目シテ相得
、喜ラ生レ居長

拙者ハ我太子殿下、懇々申サレ、由リ英
國ヨリ佛國博覽會事務官幹事、任ラ探シ長
就テ、内心得、為古事務、官負表相添ヘ拜呈
我長回向、居キ可禮下長古事務總裁、職ハ全ク
太子殿下、擔任ニ有ク且該事務官負ハ悉皆
、親ラ撰在セシムル者ニ而シテ特ニ拙者ハ太子
殿下、指令及諸處置ヲ執行スルノ任ヲ蒙リ長其
趣ハ閣下ニ呈進致長、利叶、書中ニテ博覽社下
度長
拙者、長子ヲシテ公務ニ任事スルノ深譽ヲ得セシメ



二
ル貴國ニ對シ好機會モ亦成後ハバ拙者不絶ノ
感謝且報恩ノ志ヲ顯ハサント是レ誠實ニ希定ス
ル所ナルハ日本政府ニ於テハ既ニ御存心ト存良然ル
ニ巴重府博覽會ニ付テハ日本政府ノ御企如何社爲
在及我里ニ業ホ不致良得共拙者ハ其当年中ハ英
國ノ目代代理トシテ巴重府ハ滞留致良付シ若シ日
本ヨリ御出品上又ハ其事務甚難當ニテ再出派ノ話
官ノ爲メニ何ハ法補助可致機會ニ及シテ至幸ノ至
願ヲ日本ノ諸製造品ヲ以テ尙盛大ニ歐羅巴人ノ
貴重スル所ニ通セシムルヲ盡力致度是レ偏ニ瞻
望貴國在新ニ方ニ及

一
如右貴政府ノ御企ニ於テハ未ダ承知致ガズ其得共
拙者ニ希心難然止即チ拜啓致良冀クハ閣下
臺灣征討中軍隊ニ將タル才畧ヲ以テ巧ニ指揮
揮テ施シ成功ヲ奏セラレ且ツ其御芳名番ク四方ニ
真キタレバ其實驗ノ明ヲ以テ今度巴重博覽會ニ
於テモ貴國事務官ノ懇裁ヲ御蒙リ相成度是レ深ク
相祈所ニ成カズ若シ如此ノ機會ヲ得バ親シク
閣下ト相知ルノ幸ヲモ相遂ゲ寧ニ欣喜ノ至ニ可
有之ト只管希定在良

一
博覽會へノ出品ヲ永續ニシ且ツ貴國政府ノ爲メ
ニ通商及日本製造諸品ノ利益ヲ要セラルハトニ
付テ閣下如何計之ヲ御祈望及々ハ深ク推慮
致居及得然復幸ヒ今度メスロンドス高會ヨリ
到来致良書翰ニ趣意誠ニ貴國ノ爲メ有益ノ
件ト存良中此書ト同封ニテ振込致良該高會
ハ實ニ廣大ノ能ニシテ且勸商ノ爲メ所事ナル商
産 各國ノ所産ヲ集メ商人又ハ
製造者へ賣出ス商標トシニ方々其該高會ノ設
立ニ於テハ誠ニ秘密ニ查察セシメリ一方之且其該
立ノ件ニ付テハ拙者ニ商談ニ興リ及テ三方之長
官ニ歐州各國人又諸製造者ノ目的トシ可左
成實地要ノ業ニ於テ二十餘年同其實驗
ヲ經來リ後商會ニ方々及得ハ其企誠ニ厚ク

且ツ惜ナルモノニ方之及就テハ其趣方ヲ貴政
府、誠實ナル高議ニ供センニハ必是レ充分ニ
用タルベキ事件ト存後ニ付採運致長

一

誤メスロンドス高會ハ別紙ニ算列致長通ノ物品ヲ
以テ歐洲人ニ賣廉トシテ重ニ日本製造ノ物品
ヲ在用ニ長物産産ヲ相起シ後企ニ於テ三十パー
セント或ハ其以上ヲ其スルニ豫備致長是實ニ
貴國ノ為メ緊要ノ事ニテ諸製造物品ハ其各各
ヲ大ニシ又々從テ貴重ヲ受テ向後貴國ノ物産
尚益ク廣ク歐洲ニ於テ受用ヲ得後採相成可
トト存後採者切ニ此件ヲ平ゲ以テ強テ之ヲ人
ハ薦メ致長趣方ニ於テハ益シ也ナラズ他日歐洲
ニ於テ日本通商ノ利益心大ナルヲシテラ明瞭ニ
先見致長付此採自致長夫レ如右ニシテ日本ノ
諸巧製物品歐洲人ノ所要ニ適スルニ至ランニハ其
利益ノ大ナル固ヨリ無疑ニ容レズ

一

右ノ企ニ付テハスロンドス高會ハ拙者ノ見込ト同意
致長付之ヲ謝置後此上ハ其方法ノ益々進歩ヲ
現ハシ利益ヲ生ズルニ至リ後折是レ期スル所ニ先
也

一

曩者只烈ハ、若翰採受厚謝致長且又恩息
ヲシテ閣下ノ親シキ知人タル許容ヲ得セシメラレタ
ル所厚情一對シ深ク奉謝及同人ニハ慕シハ其
懇親ヲ感佩仕吾長同此方所信用セリ、此
ノ敬具

ロー、コンリーフ、オウエン

西郷中將閣下

MAJESTY

拝啓

君曾テ深ク巧術上且ク熟中諸製造物品進
歩ノ道ヲ仰勸奨相成長成兼テ具ナニ是知
仕居後付此之見込ヲ以テ君ノ尚賢慮ニ奉
供及冀クハ其趣方貴意ニ適シテ尚賢息
フリズオハエン氏ヲ以テ日中政府ノ勸業事務
官へ建議仕テ得申度希望仕後

余等日本ノ物品ヲ輸入仕後ハ數年夫ノ事ニ有
之然ルニ其高業大ニ宜キヲ得大日本種之奇
工ノ物産ニ於ケル其形因及細工上ノ精良且早
越ナルヲニ於テハ實ニ歐羅巴ノ諸製造者等
頗ル之ヲ珍重シ且嘆賞スル所ト相成来後採
モ右高業ヲ営ムノ為メニ余等ハ本府内司

シドシヤナールル廣大ナル高業（四角ノ物産ヲ輸入シテ
諸商人之ハ諸製造者
ノ為メニ賣
ス所ナリ）ヲ設立仕後且實ニ日本巧術上ノ物品
各種ヲ排列シ且其名聲ヲ取ルヲニ於テ最ニ便
利且適宜ニ修整相成於設立ニ有之矣且又諸
紳紳大ニ等々ノ誼高厚へ未訪相成取ニ可
驚固ナル日本ノ美廉ヲ極メル良工品ヲシテ

其若クハ擴張ナサシムルノ補助ニ於テ余等
ハ大ニ盡力仕後モノトシテ孰レモ頌美下ラザル
ハ無之矣
余等ハ此高業ヲ益々執行仕後為メニ推廣ニ
へモ支店ヲ相設後然ルニ歐羅巴ノ
ノ急進商會ヨリ種々ノ製造物ニ於テハ莊師
用トシテ日中漆器ノ散板、銅器類、象牙細工、
磁器等ノ大ナル需ヲ得余等ハ之カ為メニ歐

羅巴ノ諸製造物品進歩ノ道ヲ仰勸奨相成長成兼テ具ナニ是知仕居後付此之見込ヲ以テ君ノ尚賢慮ニ奉供及冀クハ其趣方貴意ニ適シテ尚賢息フリズオハエン氏ヲ以テ日中政府ノ勸業事務官へ建議仕テ得申度希望仕後

力ヲ得長安ニ君如此即通知相成長河ノ
巧術上ノ知識ヲ廣ク人民ニ擴充セシメテ
補裨仕ノ所存ニテ此商業ヲ高益ク盛大ニ
振張仕度是偏ニ祈ル所ニ即望長

此大ナル勸商、通ヲ行ハシニハ日本ノ事務
官ニ於テハ必ズ遠カラザル中該種之ノ良工
及工匠ノ大ニ且永久ニ利益^{ヲ生}セシメテ即覽
有之長テ可方之候ト奉存長

日本ノ製造物品ヲ以テ歐羅巴人ノ需要ス
ル所ニ通スル、通ヲ擴張仕長方法ハ他事ニ
無ク只其諸物品ヲ實用ノ方形ニ製シ且テ諸需
用ニ適スルノ式樣ニ豫備仕長テ之ヲ買者ノ
注目スル所ニ相供シ長テ是ノニ肝要ノ事件

ニ有之長故ニ余等ハ此目途ヲ以テ十八百七
十八年ニ催スル巴里博覽會へ日本巧術上
ノ製品ヲ合用シテ製造シタル歐羅巴ノ家具
即チ椅子其他坐鋪飾物ノ類及諸粧飾其
他有用諸品ノ模範ヲ陳列仕度相企長此

ニシテ日本製出ノ物品ヲ以テ益ク歐羅巴
ニ於ケル諸製造者ノ所業ニ通スルノ通テ
用キ而シテ日本ノ物品ニ於テハ明白純粹ニ
其崇重ヲ保存シテ又長極仕度是レ余

等ノ思起ルニ由望長夫レ此方法ヲ施行仕長
半ニハ歐羅巴ニ於テ諸用品又ハ諸飾物ノ類ヲ
製スルニ宝珠玉及陶器類ヲ相用長付該ノ絶
妙ナル日本ノ物品ヲ通用スル亦々如此ニ仕長

ハ其後群ノ芳聲ヲ得以テ利益ヲ生ズルニ
至リ長テ疑ヲ容レズ長將々余等今度ノ博覽
會へ陳列スルノ企ニ於テハ尤モ厚ク其方法ヲ定

メ是ヨリシテ必ズ日本ノ物品ヲ以テ歐羅巴人
ノ所業ニ通スル物ト爲シ其卓越且成功ヲ

遂に概ね等及為メ該家具及其他ノ物品製造方ニ於テハ特ニ之ヲ歐羅巴ニ於テ至吾ノ製造者ニ指令仕製造為仕後若クハ有之良

右ノ企ニ付テ巴里博覽會ノ節ハ該列品場ニ於ケル日本ノ區内ニ於テ若干ノ區地ヲ同事務官ヨリ余等ハ亦分賦相成及標奉致度

且ツ余等日本人民ノ為メニ生産及通商ラシテ益々盛大ナラシメニ為メ盡力仕後付其勸勵ノ云々今度ノ博覽會事務官ニ於テ余等ノ姓名ヲ以テ免許ヲ請ケタル日本物品ノ輸入者ト云ヒ以テ公ニ御出板相成及標奉致度

右ノ趣奉致後ニ付テハ部テ日本事務官ノ所規則ヲ遵奉シ而シテ萬事博覽會上ノ付付テハ同事務官ノ御指令ニ相背不申後後固ヨリ格護罷在ルニ以テス

一 倘シ日本事務官ヨリ右致意ノ所許容相成及年ニハ徒ニ目今ノ為メノニニ非ズ向後日本各種ノ製造者ノ製品ヲ以テ益々歐洲人ノ所要ニ

一 適當及標深ク盡力補助可仕良如此陳列仕後余等ノ物品中ニテ栄譽ヲ得

一 賞牌又ハ諸褒賞ヲ得後付有之節ハ固ヨリ之ヲ辭退仕若クハ此後及而シテ其功能ニ於テハ全ク日本製造者ハ巧物品能ク其適當ヨリ得

一 ルニ由ルニハ御成事得ル是ハ日本事務官ニ於テ更ニ所決裁相成該良ノ物品ノ製造者相ナリ

一 ノ者ハ所賦與相成交氏余等ノ祈望スル所ニ以テ後 右誠惶敬具
龍動府、ロンドン、ワール第一百六十六番一百七十七番
千八百七十七年一月一日
メスロンド、商會

太子殿下ノ總理下
英國侍臣
大英事務官及事務官
大英事務官フリード、コンリーフ、オウエン 謹啟

573
0

才
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百